

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 5 月 27 日 (2021.5.27)

【公開番号】特開 2019-215448 (P2019-215448A)

【公開日】令和 1 年 12 月 19 日 (2019.12.19)

【年通号数】公開・登録公報 2019-051

【出願番号】特願 2018-112649 (P2018-112649)

【国際特許分類】

G 0 2 B 5/02 (2006.01)

H 0 1 L 51/50 (2006.01)

H 0 5 B 33/02 (2006.01)

H 0 1 L 27/32 (2006.01)

G 0 2 F 1/1335 (2006.01)

G 0 9 F 9/00 (2006.01)

G 0 9 F 19/00 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 5/02 B

H 0 5 B 33/14 A

H 0 5 B 33/02

H 0 1 L 27/32

G 0 2 F 1/1335

G 0 9 F 9/00 3 1 3

G 0 9 F 19/00 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 4 月 14 日 (2021.4.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

一部が露出している第一主面を有する基材と、  
前記第一主面の別の一部を覆う防眩膜と、を備え、  
前記第一主面及び前記防眩膜の表面によって形成された凹凸のある第二主面を有し、  
前記第二主面を平面視したときに、前記防眩膜の面積は、前記第二主面の面積の 10 ~ 90 % を占めており、

前記第二主面において、日本工業規格 JIS B 0601-2001 に定められた、算術平均粗さ  $R_a$ 、最大高さ  $R_z$ 、及び粗さ曲線要素の平均長さ  $R_{Sm}$  は、下記 (i)、(ii)、及び (iii) の条件を満たす、

防眩膜付基材。

(i) 前記算術平均粗さ  $R_a$  が  $0.08 \sim 2 \mu m$  である。

(ii) 前記最大高さ  $R_z$  が  $0.5 \sim 15 \mu m$  である。

(iii) 前記粗さ曲線要素の平均長さ  $R_{Sm}$  が  $15 \sim 50 \mu m$  である。

【請求項 2】

前記最大高さ  $R_z$  が  $1.6 \mu m$  より大きく、かつ、前記粗さ曲線要素の平均長さ  $R_{Sm}$  が  $30 \mu m$  より大きい、請求項 1 に記載の防眩膜付基材。

【請求項 3】

前記防眩膜は、 $0.5 \sim 15 \mu\text{m}$ の一次粒子径を有する粒子と、平面視において前記粒子を取り囲むバインダとを含む、請求項 1 又は 2 に記載の防眩膜付基材。

【請求項 4】

前記粒子は、互いに離れている、請求項 3 に記載の防眩膜付基材。

【請求項 5】

前記防眩膜は、前記粒子の少なくとも一部が集合して形成され、かつ、 $10 \mu\text{m}$ 以下の粒子径を有する二次粒子を含む、請求項 3 に記載の防眩膜付基材。

【請求項 6】

前記バインダの厚みは、前記バインダによって取り囲まれた前記粒子の前記バインダの厚み方向における寸法よりも小さい、請求項 3 ～ 5 のいずれか 1 項に記載の防眩膜付基材。

【請求項 7】

前記防眩膜における前記粒子の体積に対する前記バインダの体積の比が  $5/3 \sim 9$  である、請求項 3 ～ 6 のいずれか 1 項に記載の防眩膜付基材。

【請求項 8】

前記防眩膜における前記粒子の質量に対する前記バインダの質量の比が  $5/3 \sim 9$  である、請求項 3 ～ 7 のいずれか 1 項に記載の防眩膜付基材。

【請求項 9】

前記粒子の主成分は二酸化シリコンであり、かつ、前記バインダの主成分は二酸化シリコンである、請求項 3 ～ 8 のいずれか 1 項に記載の防眩膜付基材。

【請求項 10】

前記粒子は実質的に二酸化シリコンからなり、かつ、前記バインダは 10 質量%以下の有機成分を含有する、請求項 3 ～ 9 のいずれか 1 項に記載の防眩膜付基材。

【請求項 11】

JIS Z 8741-1997に定められた 60 度鏡面光沢の鏡面光沢度  $G_{60}$  ( $60^\circ$ ) が  $40 \sim 110$  であり、かつ、JIS K 7136:2000に定められたヘーズが  $5 \sim 30\%$  である、請求項 1 ～ 10 のいずれか 1 項に記載の防眩膜付基材。

【請求項 12】

前記基材は、ガラスを含む、請求項 1 ～ 11 のいずれか 1 項に記載の防眩膜付基材。

【請求項 13】

前記ガラスは、ソーダライムシリケートガラス及びアルミノシリケートガラスからなる群より選択される少なくとも 1 つである、請求項 12 に記載の防眩膜付基材。

【請求項 14】

前記ガラスは、前記ガラスの表面をなす圧縮応力層を有する、請求項 12 又は 13 に記載の防眩膜付基材。

【請求項 15】

前記基材は、前記第一主面をなす被膜と、前記被膜を支持する前記ガラス製の支持体とを備えた、請求項 12 ～ 14 のいずれか 1 項に記載の防眩膜付基材。

【請求項 16】

画面を有する画像表示ユニットと、

前記画面と前記防眩膜との間に前記基材が位置するように配置された、請求項 1 ～ 15 のいずれか 1 項に記載の防眩膜付基材と、を備えた、

画像表示装置。

【請求項 17】

画面を有する画像表示ユニットと、

前記画面と前記防眩膜との間に前記基材が位置するように配置された、請求項 12 ～ 15 のいずれか 1 項に記載の防眩膜付基材と、を備えた、

デジタルサイネージ。